

サーバでの集中管理により シンプルで安全な情報システムを構築します

サーバベースコンピューティング(SBC)

企業における情報漏洩の大部分は、内部関係者による人為的なミスや故意によるものと言われています。安全な情報システムを構築するには、技術的・物理的な対策はもちろん、社員の教育やモラルの徹底などを含めた、バランスのとれたセキュリティ対策を行う必要があります。

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社(MDIT)では、このような課題をカバーするソリューションとして、アプリケーションやデータをすべてサーバで管理する、サーバベースコンピューティング(SBC)を提案しています。

今回は、SBCソリューションの開発・販売に携わっているMDITのインフラソリューション技術第二部 技術第一課 専任の木幡康博氏、ITサービス&セキュリティソリューション部 セキュリティマネジメント第一課 担当課長の富安哲郎氏、システム技術部 オープンシステム第一グループ 担当課長の清水茂樹氏のお三方に、SBCにおける情報セキュリティ対策の効果、そして将来展望などについて語っていただきました。

セキュリティ対策をシンプルに実現 さらにTCO削減にも大きな効果

2005年4月より個人情報保護法が施行されます。個人情報扱う企業は、さまざまな義務や対応が課せられるようになり、今まで以上に情報セキュリティの徹底が求められます。

しかし、一口に情報セキュリティといっても、不正アクセスやデータの改ざんといった技術的なことから、PC盗難によるデータの持ち出し、ハードウェアの故障、災害といった物理的なことまで、その領域は広範囲に及びます。しかも、企業における情報漏洩の大部分は内部関係者の人為的なミスや故意によるものと言われており、技術的、物理的のみならず、人的な情報セキュリティ対策も十分に行っておく必要があります。

MDITでは、そのような企業ニーズに対応するため、アプリケーション、データのすべてをサーバで一元管理するSBCソリューションを提供しています。SBCは、安全な情報システムの構築に求められる「機密性(盗まれない)」「完全性(壊されない)」「可用性(いつでも使える)」といった要素をバランスよく実現しており、その仕組み自体も非常にシンプルなのが特長です。既存のクライアント・サーバシステムで構築したアプリケーションやデータのほと

んどをSBC環境へ継承することができ、TCO削減という観点からも非常に効果的なソリューションです。

認証や暗号化技術を組み合わせ 高度なセキュリティ機能を提供します

SBCでは、アプリケーションやデータはすべてサーバ上で管理され、クライアント端末側は、画面表示やキーボード・マウスによる入力といった処理が行われるのみです。また、サーバ側からクライアントのデータ入出力に対して制限をかけることができ、不正にデータを持ち出すことを防止できます。

情報セキュリティ関連の製品は数多く存在しますが、個人のPCに企業の情報がど

んど蓄積されるクライアント・サーバシステムでは、いくら情報セキュリティ対策を講じていても、悪意を持った人間によって故意に漏洩される危険性を常にはらんでいます。SBCは、集中管理により個人の手元に情報が残らないため、データを持ち出すといった悪意すら起こさせない仕組みとなっています。

しかし、アプリケーションやデータをサーバで集中管理した状態でも、誰もがアクセスできるようにではセキュリティが十分に守られているとは言えません。そこでMDITでは、ICカードや指紋認証など、多彩な認証ソリューションをSBCと組み合わせで提案しています。

また、機密性の高いファイルへのアクセス制限など、SBC単体では防止しきれな

エンジニアの ここが 言いたい 群を抜くセキュリティ対策と 運用管理コストの大幅削減

「SBCは、シンプルなシステム構築で、セキュリティ対策と管理コスト削減を同時に実現できるシステムです。SBCは他社でも取り組んでいますが、当社の強みはSBC専用端末を開発・提供していることと、世界最高水準のセキュリティ技術を駆使し、他社にない実用的で高機能なセキュリティソリューションを提供していることです」



ITサービス&セキュリティソリューション部
セキュリティマネジメント第一課 担当課長
富安 哲郎氏

い部分については、三菱電機の利用権管理ソリューション「DROSY」を併用、高度な暗号化技術によってファイルを暗号化し、閲覧や印刷、複製など細かな利用制限を設定することができます。

専用端末、構築技術と実績が 導入を強力にサポートします

MDITでは、SBC専用の端末としてサーバベースクライアントを提供しており、この端末を利用することで、よりセキュアなSBC環境を構築できます。

サーバベースクライアントは、ハードディスクやファンなどの駆動部品を装備しておらず、液晶画面のみのシンプルな構造。ウイルス感染や故障によるリスクが少ないので、可用性を大きく高めることが可能です。また、フロッピーディスクなどのリムーバブルデバイスを備えておらず、データの不正な持ち出しも防ぐことができます。さらに、デスクトップPCと比較して、省スペースかつ静寂な設計であるため、オフィス環境の向上にも貢献します。

SBCを構成するサーバとサーバベースクライアントには、Windows Terminal Serviceを強化し大規模システムやWebシステムへの展開を可能にする米国Citrix社の「MetaFrame」や米国GraphOn社の「GO-Global」といった製品の技術が採用されています。本ソリューションでは、これらの優れた技術のメリットが、オープン系プラットフォーム開発に十数年の経験をもつ

エンジニアの ここが 言いたい ユビキタス時代に向けた新しい SBC応用ソリューションも提供

「SBCは、機能や安全性など、技術的な部分については、完成形に近づいており、いつでも確実につながるネットワーク環境が整備されるユビキタス時代に向け、さらなる用途提案を積極的に推進しています。そのために当社は、研究所と連携してSBCに関する各種ソリューションの開発を実施するとともに、多数のビジネス関連特許を出願し、他社との差別化を実現しています」



システム技術部
オープンシステム第一グループ 担当課長
清水 茂樹氏

三菱電機の技術力により最大限に引き出されており、また、全国に約400拠点、端末約1万台のクライアント・サーバシステムをSBCへリプレースするという大規模プロジェクトを成功させた実績が、お客様の要件に応じた導入を強力にサポートします。

ユビキタス時代に向けて 可能性はさらに広がります

SBCは、サーバ・端末間の通信が画面の差分情報とキーボード・マウスなどの出力情報のみで行われるため、32Kbps程度の通信環境さえあれば、文書作成や表計算などのアプリケーションを問題なく動作させることが可能です。低速のISDNでも、自宅や客先から会社のSBCサーバへアクセスすることにより社内と同様の環境で安全にアプリケーションを利用できることから、ノートPCやPDAなどモバイルと連

携したSBCの導入も増えると考えられます。

MDITでは今後、インターネット環境が整備され、本格的なユビキタス時代が訪れると、SBCの可能性はさらに広がっていくと予想しています。ハードウェアに関しては、無線LANに対応した電子手帳や、日中の屋外でも見やすい高輝度液晶画面を搭載したペンタブレットなど、安価で高機能な製品が次々と市場に出てきています。いつでも、どこでも、ネットワークに接続可能なインフラさえ整備すれば、アイデア1つでさまざまな業務の効率化やビジネスチャンスを創出するソリューションとなり得るでしょう。

単にセキュリティ強化だけでなく、TCO削減においても非常に効果のあるSBCソリューション。これからはMDITでは、サーバから端末、構築にいたるまでトータルソリューションでお応えするとともに、さらなる改善に取り組んでいきます。

製品に関する詳細は
<http://www2.mdit.co.jp/service/sbc/index.htm>
製品に関する技術論文は
<http://www.mdis.co.jp/company/index7.html>



製品の詳細が記された技術論文(PDFファイル)を上記URLよりダウンロードできます。こちらもぜひご覧ください。

エンジニアの ここが 言いたい 1万台導入をはじめ、豊富な 実績・経験が差別化ポイント

「SBCは、メインフレームやオフコンといった従来のホスト集中型システムによく似ており、当社は、メインフレーム全盛の頃よりノウハウを蓄積するとともに、オープン系システムの開発や構築にも豊富な経験を持っています。これまでに端末1万台という大規模SBCシステムの導入にも成功するなど、あらゆるケースに対応できると自負しています。導入にあたっては、お客様のニーズに合致したシステム構築をフルサポートいたします」



インフラソリューション技術第二部
技術第一課 専任
木幡 康博氏